

空白地域における日本語教室設置と コーディネーターの役割

～ 石川県中能登町における地域日本語教育
スタートアッププログラムの取組から ～

石川県 中能登町教育委員会

生涯学習課 主事 福永 理夏

なかのとまち 石川県 中能登町について



能登半島の真ん中

人口：約18,000人

世帯：約6,600世帯

面積：89.45 km²

- ・能登上布（伝統）
- ・日本最古のおにぎり（歴史）

在住外国人の状況（国籍別）

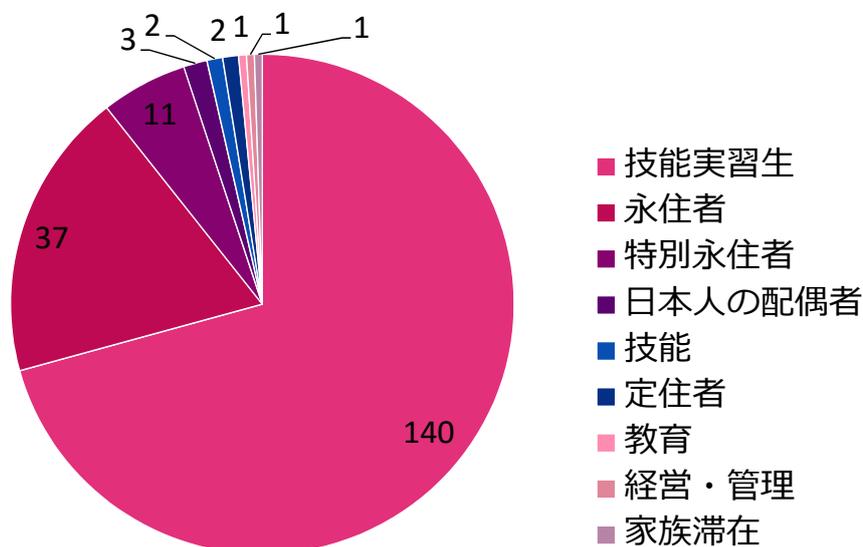
◆198人（令和元年7月末現在） 人口の約1%

国籍	人数
中国	99
ベトナム	67
韓国	10
ミャンマー	10
朝鮮	4
フィリピン	3
スリランカ・イタリア・タイ アメリカ・ブラジル	各1

在住外国人の状況（在留資格別）

◆約7割が**技能実習生**（令和元年7月末現在）

（主に繊維・縫製関係）



事業取組のきっかけと準備 (平成27~28年度)

◆議会の一般質問 (平成27年度)

「多文化共生と日本語教室の現状について」

◆調査の為、日本語サポーター講座への参加 (平成28年度)

◆石川県と中能登町との共催で多文化共生事業 (平成28年度)

◆本プログラムに応募し内定！

→日本語教室の立ち上げに取り組むことに

重要性に
気付く

ニーズを
実感！

？

町として誰のため、何のために教室をするのか？

生涯学習課とコーディネーターによる検討の結果

方向性の決定
(H29)

「言語」の習得 ×
資格取得の勉強 ×

- ◆ 生活支援、防災、地域連携
- ◆ 顔の見える関係作り
- ◆ 多文化共生の地域作り

町としての事業
一人の為 ×
町民全体の為 ○

を目指したい！

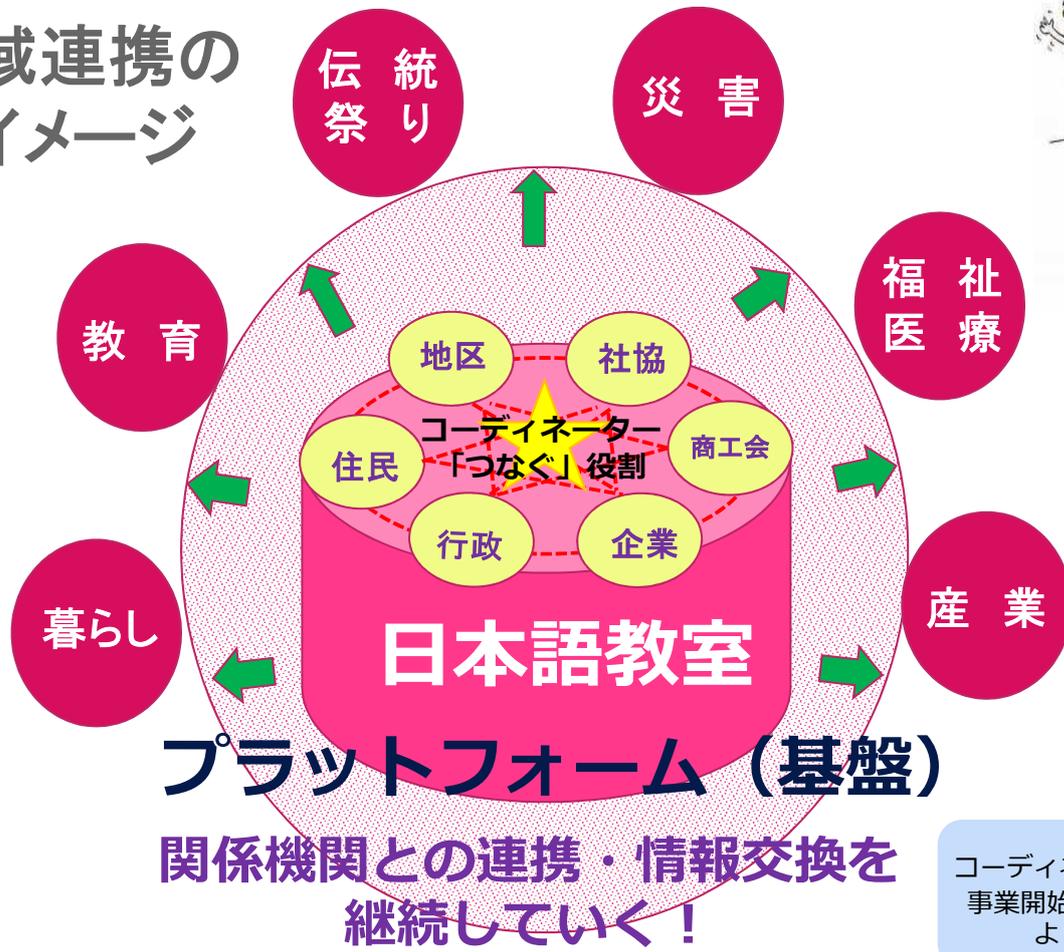
そのためには

教室のあり方

日本語教室を多文化共生の拠点に

地域住民と在住外国人を繋ぐプラットフォーム (基盤) を目指す

地域連携のイメージ



コーディネーター作成
事業開始時（H29）
より使用

日本語教室活動の実績（平成29・30年度）

	テーマ	参加人数 (外国人数)	
平 2 9 年 度	1.外国人の本音トーク	34人	プレイベント ↓ 参加者の間口拡大
	2.外国人との接し方	26人	
	3.料理作りでにほんごを学ぼう	29人	
平 3 0 年 度	4.お花見でにほんごを学ぼう	37人 (11人)	「日本語で話す こと」を意識 ↓ 少しずつ教室へ
	5.町祭でにほんごを学ぼう	23人	
	6.お月見でにほんごを学ぼう	62人	
	7.紅葉でにほんごを学ぼう	26人	
	8.節分でにほんごを学ぼう	26人 (11人)	
	9.休みの日に行きたいところ	32人 (12人)	

参加者同士の対等な会話を大切にし、交流タイムも行った





外国人の本音トーク



料理作り



☆キーワード☆
日本語を使う
生活のヒントを得る
顔見知りになる



お花見でにほんごを学ぼう



町祭でにほんごを学ぼう

多文化共生事業の実施（平成29・30年度）

多文化共生事業

町広報への記事掲載（毎月）

町防災訓練への参加（年1回）

町職員会での研修会実施

中能登町祭：多言語アナウンス

中能登町祭：多文化共生ブースの出展

中能登町祭：総踊りへの参加

中能登町祭：ファッションショー出演

英・中・ベ
テロップも



町防災訓練



多文化共生ブース

他課と連携

広報（情報推進課）防災（総務課・
住民福祉課）町祭（企画課）



一緒に参加



ベトナムの民族衣装 アオザイ

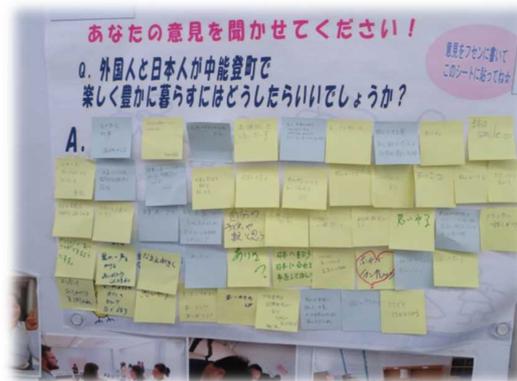


外国人住民の存在を
知ってもらう機会！

一緒に参加



意見がたくさん！



☆ 特色 ☆

◆外国人キーパーソンがいる。

(中国・イラン・ベトナム)

体験談
ネットワーク



◆常設の場所がある。(町生涯学習センター内)

◆町長をはじめとする上層部の理解がある。

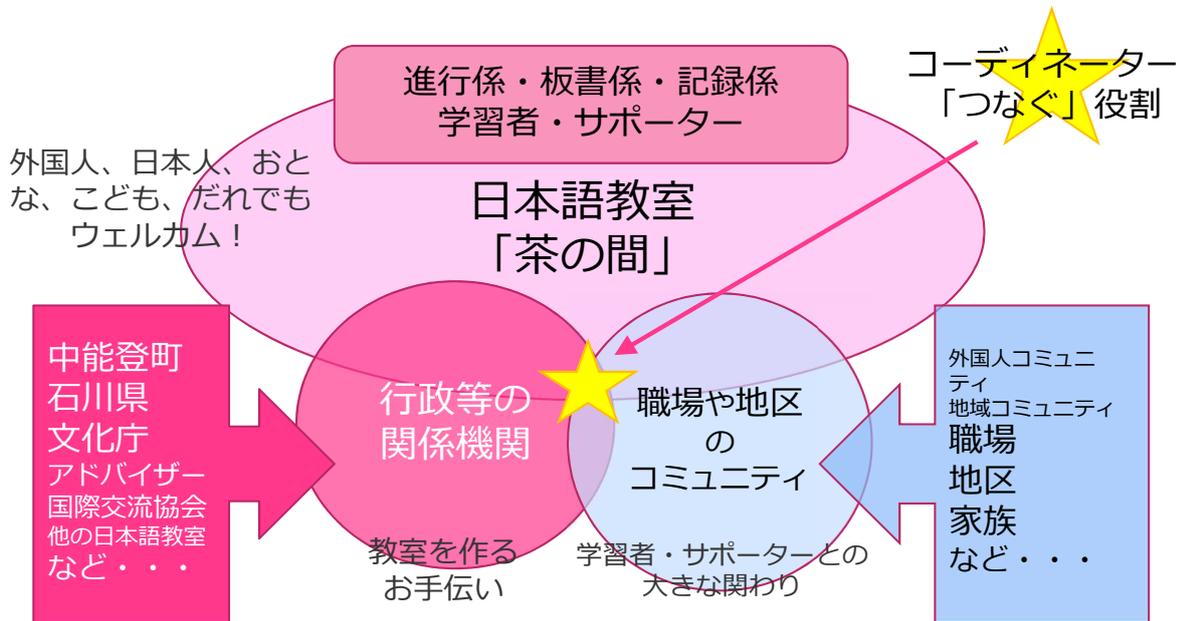
町
理解・参加
連携・協力

現在の教室の体制（令和元年度）

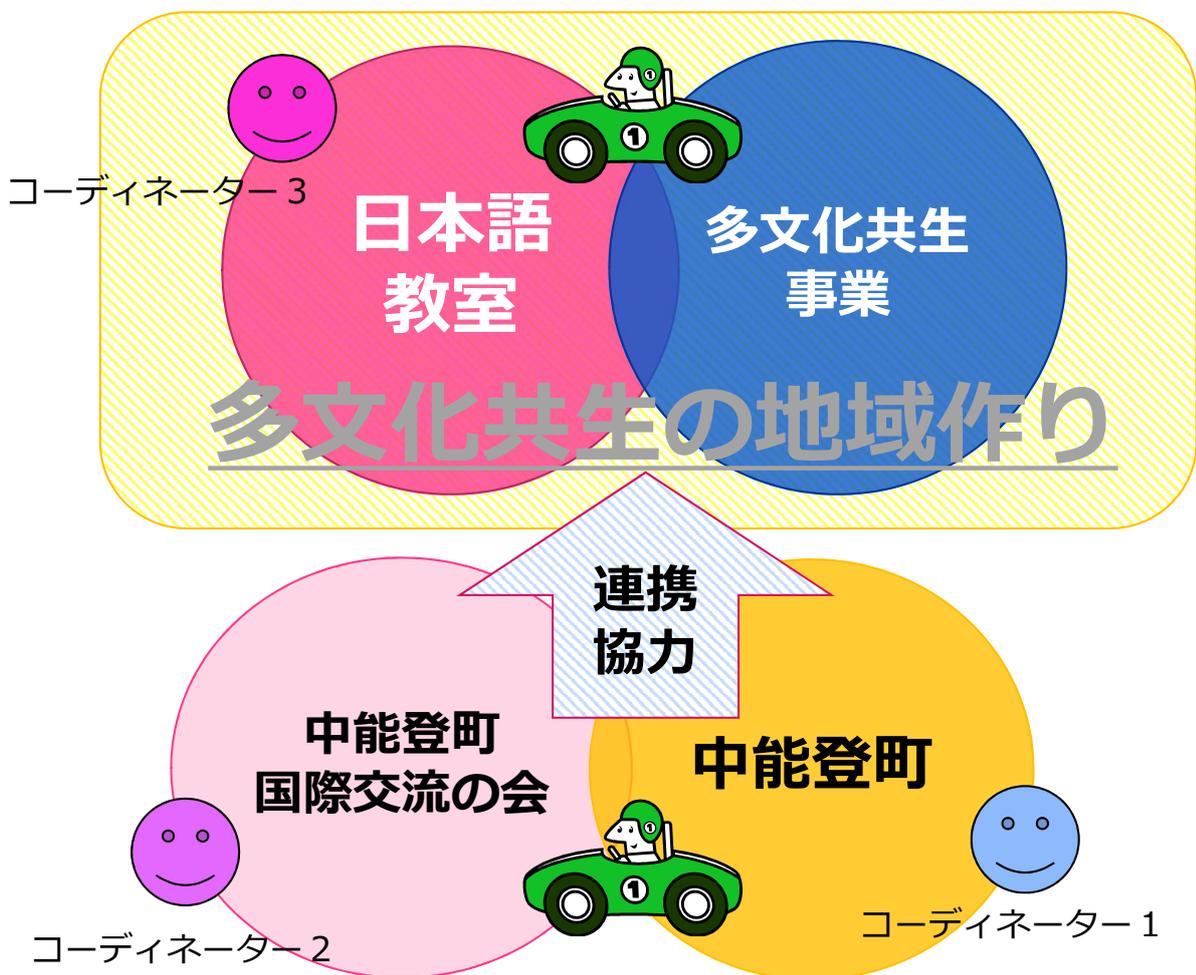
◆中能登町国際交流の会 多文化共生部会中心となり実施

◆教室：毎月第1日曜日 10:00～12:00

◆会議：毎月第4木曜日 19:00～21:00



中能登町です！「にほんご教室」をはじめます！をご覧ください。



コーディネーターの役割

◆コーディネーター 1

行政の
コーディネーター
本プログラムに関わる
中で、他部署・関係機関との連携、予算要求
や他コーディネーターの育成と事業化

◆コーディネーター 2

事業の
コーディネーター
国際交流協会の一員
本プログラムに関わ
しの際の連絡調整

◆コーディネーター 3

日本語教室に関わった経験を持つ
日本語教育に関する知見から授業立案や

教室の
コーディネーター

成果と課題

◆日本語教室「茶の間」

体制及び教室内容等基礎の確立

◆町（行政）

連携・協力体制の見直しと継続

↓ 双方連携をして

目標!!

「持続可能」な日本語教室！

教室を続けていく

プロセスが多文化共生の地域作りそのもの

☆教室を続けていく為→コーディネーターを育てる機会の拡充を！



ご清聴ありがとうございました。

